



「要」の防潮堤工事の施工不良で、工事終了の目途立たず 茨城県元竜ヶ崎市議会議員 披田信一郎

日本原電の東海第二原発は、全国でも美浜3号機、高浜1、2号機に次いで古く、今年46年目を迎えた「老朽原発」であり、3.11で津波を被った「被災原発」です。今年9月、対策工事の完成予定とされ、岸田政権の原発推進政策の下、女川2号機、島根2号機そして柏崎刈羽7号機と並んで、国の後押しで再稼働が進められようとしています。

しかし、無理押し工事の結果、原電自ら認める安全対策工事の「要」である津波対策としての防潮堤建設で、その地中に建設中の基礎工事で欠陥工事ともいえる「不具合事象」が発生し、改めて規制委員会の設計変更の審査を受けねばならなくなり、対策工事の完成予定すら示せない事態となっています。

海に面した前面の取水口を跨ぐような形の防潮堤建設で、長さ80m×高さ18m×厚さ6m、重さ4600トンの鋼製防潮壁を支える、南北2本の深さ56mの鉄筋コンクリート製基礎を地中連続壁工法で作る過程で、コンクリートの未充填、鉄筋の変形、鉄筋の高止まりで設計通りの深さまで鉄筋の入っていないままに工事を進めた、などなどあきれるような欠陥工事となっていたのです。今、原電は、鉄筋を増

やす設計変更で設計強度が出せると、規制委に認めてもらって何とか済ませようとしています。しかし、申請書で、欠陥・施工不良の原因として「…考慮した施工設計まで考えが至らなかった」と自ら書くほどの、施工管理能力・技術力の不足を露呈させている事業者なのです。

また、PAZ、UPZ圏内の避難計画作りは半数にとどまり、特に、1月の能登半島地震以降、自然災害との複合災害時には対応できないことを、策定した東海村や日立市でも首長が認めるなど、「第5層」の避難計画とその実効性確保については矛盾続出です。

差止訴訟で住民勝訴を勝ち得るほどに問題な東海第二原発を、私たちはきっちりと「廃炉しかない」ことを明らかにして、再稼働を断念させるたたかいに勝利します。



7月 福島を忘れない全国シンポジウム・現地視察

全国シンポジウム

期日：7月7日（日）14時～16時30分

場所：ホテルグリーンパレス福島 JR福島駅すぐ

現場からの報告予定：

菅野清一 川俣町議会議員
横山秀人 飯館村議会議員
松本静男 葛尾村議会議員
佐々木茂 浪江町議会議員
木幡ますみ 大熊町議会議員

現地視察

期日：8日（月） 7時30分 ホテル出発

7月 関西ブロック第8回総会・記念講演会

期日：7月15日（月・休日）14時～16時30分

場所：クロスパル高槻 5F視聴覚室 JR高槻駅すぐ

記念講演：北野 進さん
志賀原発を廃炉に！訴訟団団長

『老朽原発うごかすな！
能登での反原発のたたかい 一珠洲と志賀一』

報告：木原壮林さん 若狭の原発を考える会
『使用済み核燃料の発生源・原発の全廃を！』

★Zoomでのオンライン参加が可能です

参加希望は、下記のメールにお申し込みください

メール：ryuuta-takagi@hb.tp1.jp

関西ブロック連絡先：090-6062-3764

原発やめようニュース 反原発自治体議員・市民連盟

NO. 48 2024年6月

福島事故を起こした東電に柏崎刈羽原発を動かす資格はない

東電が柏崎刈羽原発に核燃料を装荷

東京電力は4月26日、柏崎刈羽原発7号機の原子炉に核燃料を装荷する作業を完了したと発表しました。2013年に新規制基準が作られて以降再稼働した他社の12基の原発は、すべて地元自治体同意後に装荷しており、地元の同意なく装荷するのは初めてです。東電は、再稼働とは異なるから地元の同意は必要ないとの見解です。福島の事故で背負った多額の負債を柏崎刈羽原発の再稼働で改善したいと考える東電の身勝手な主張です。

不祥事続きの東電に原発の稼働はできない

柏崎刈羽原発6、7号機は、2017年末の適合性審査終了後、テロ対策の不備が相次いで発覚し、原子力規制委員会から原子炉等規制法違反とされ、核燃料の移動や原子炉への装荷を禁止されていました。昨年末に禁止は解除されたものの、花角英世県知事も新潟県議会も再稼働の判断を未だしていません。

これに対し岸田政権は、3月、斎藤経産大臣が県知事、柏崎市長、刈羽村長に電話で理解を求め、さらに資源エネルギー庁長官を現地に派遣し立地自治体に圧力を加えました。

東電は核燃料を装荷する途中でも、監視装置や制御棒の電源ブレーカーで不具合が続き、2回も中断しました。新潟県議会では自民党も含め東電に対する不信が強まっています。

使用済み核燃料の青森搬送を許すな

東電は核燃料装荷に先立ち、事業開始準備

反原発自治体議員・市民連盟

共同代表 佐藤英行（岩内町議会議員）
福士敬子（元東京都議会議員）
武笠紀子（元松戸市議会議長）
野口英一郎（鹿児島市議会議員）

〒168-0072
東京都杉並区高井戸東3-36-14-301
TEL/FAX 03-3317-0356
郵便振替 00110-7-449067

中の青森県むつ市「中間貯蔵施設」に柏崎刈羽原発の使用済み核燃料を搬送する計画を発表しました。柏崎刈羽原発では、使用済み核燃料を保管するプールが6号機で92%、7号機で97%とほぼ満杯状態で、使用済み核燃料の保管場所を確保することが不可欠です。

この動きに対し、青森の議員・市民は、「むつ中間貯蔵施設使用済み核燃料搬入反対現地実行委員会」を結成し、搬入に反対する行動を呼びかけました。使用済み核燃料の全量再処理(※)を前提としたむつ市への搬入は、六ヶ所再処理施設の度重なる操業延期という事態の中では、下北半島を核のゴミ置き場にしようとするものでしかありません。

※全量再処理：すべての使用済み核燃料は必ず再処理してプルトニウムを分離し、再利用する原則

東電の電気を使う首都圏の闘いが重要

柏崎刈羽原発から電力を供給される首都圏の住民には責任があります。使用済み核燃料の搬出に反対する新潟や搬入を阻む青森の皆さんと連帯し、東電の柏崎刈羽原発の再稼働を許さない取り組みを強めましょう。



柏崎刈羽原発の再稼働を止める 首都圏行動

6月28日（金）15時30分

衆議院第二議員会館

講演：桑原三恵氏

新潟、青森から報告

同日18時 東電本社前要請行動

能登半島地震を教訓に、地震に弱い原発を直ちに止めよう

4月20日反原発自治体議員・市民連盟第14回総会を開催

政府の原発推進法実施を全国の力で阻もう

今年度は、原発推進法の実施で原発再稼働や新增設に向かう流れを阻む正念場、全国の原発立地の議員・市民と連携し、政府の原発推進を阻む取り組みを確認しました。

第一に、5年ぶりに7月7日第8回福島を忘れないシンポジウム、8日現地視察を再開すること、第二に、9月に予定された女川原発をはじめ今年連続する原発再稼働を止める闘い、第三に、東京電力の柏崎刈羽原発再稼働を許さない取り組み、第四に、関西電力若狭の老朽原発を止める課題、第五に、行き場のない危険な使用済み核燃料を増やさず、柏崎刈羽原発から青森への搬送を許さない闘い、第六に、汚染水の海洋投棄を阻む闘いの継続を確認しました。

～地震も事故も まったなし～ 老朽原発ただちに廃炉！3.31美浜全国集会

二木 洋子 関西ブロック

3月31日（日）、各地から400名が結集し、美浜全国集会が開かれました。

井戸謙一弁護士は、「老朽原発運転差止仮処分について」と題した講演のなかで、「世界の原子力発電と震源」の地図（金沢大学、土井妙子教授）を紹介し、世界のなかで、震源地に原発があるのは日本だけであること、珠洲原発をストップさせた人たちが日本を救った、原発を終焉させなければと結びました。

その珠洲原発をストップさせた北野進さん（志賀原発を廃炉に！訴訟原告団長）の「能登での反原発のたたかい」と題する報告のなかで、能登地震の震央は珠洲原発建設予定地（関電）裏山で、今、どのような状況になっているのか、たまたま運転していなかった志賀原発の状況などスライドを使って、説明されました。あまりのリアルな報告に、割れんばかりの大きな拍手が会場に響きました。

集会宣言後、美浜町内のデモ。美浜町でも

原発立地の報告、上岡直見氏の講演に学ぶ

原発立地からは、佐藤英行岩内町議会議員、小熊ひとみ青森市議会議員、阿部功志東海村議会議員、野口英一郎鹿兒島市議会議員から現地の取り組みを、記念講演は、新潟県の原子力災害時の避難方法に関する検証委員を務めていた上岡直見環境経済研究所代表から受けました。

上岡氏は、能登半島地震に即した原子力防災体制を検証し、避難も屋内退避もできない原子力防災体制の破綻を明らかにしました。国は国民の保護を全く考えていないこと、自治体は何をすべきか、福祉施設等の災害弱者の避難、集団輸送の困難、自治体の人的不足、避難所の不足などの課題を示し、今後の取り組み課題をお聞きしました。



3.31美浜現地で400人が意志表明！



6.30「さよなら！志賀原発 全国集会in金沢」に全国から結集を！

珠洲市 北野 進

元日の能登半島地震は、奥能登を中心に甚大な被害をもたらしました。地域が壊滅する光景に多くの人が目を覆うと同時に、被災地にかつての珠洲原発の予定地があり、さらに13年間運転停止中ではあったものの志賀原発があることにも衝撃が広がりました。

原発に反対してきた全国の皆さんは「今年こそ脱原発に向かう年にしなければならない」と新年の決意を固められたことと思います。

石川、富山で志賀原発の反対運動に取り組んできた私たちも思いは同じです。被災地を抱え、多くの住民の関心が原発ではなく被災地の住民の救済、孤立集落の解消、避難所への支援など、直面する課題に向けられ、全国の皆さんの運動から後れをとってきたことも

事実だろうと思います。

しかし、震災からまもなく半年。いつまでも足踏み状態ではいけません。6月30日に「さよなら！志賀原発 全国集会in金沢」を企画しました。その大きな目的は①珠洲原発の阻止の意義を全国の皆さんと確認しあいたい、②まずは被災地にある志賀原発を廃炉に追いつことが大切であり、これを脱原発への突破口にしたい、③大断層に囲まれた志賀原発は次なる大地震に耐えられない、一刻も早い廃炉へ全国の力を結集したい、以上の3点です。

原発震災への「危機感」と、今こそ脱原発へと向かわねばという「意気込み」で集会を成功させたいと思っています。多くの皆さまのご協力をぜひともお願いします。

6月30日（日）

会場：いしかわ四高記念公園（金沢市広坂2-2 金沢城公園南）

13時オープニング・14時集会・15時半市内パレード（終了16時半）

“危ないものは、何でもかんでも下北半島か!!”

— むつ中間貯蔵施設搬入阻止の闘い・使用済み核燃料の青森搬入を許すな —

小熊ひと美 青森市議会議員

今、青森県むつ市のむつ中間貯蔵施設では、昨年末に規制委員会の規制が解かれた新潟・東電柏崎刈羽原発からの使用済み核燃料の搬入計画が急ピッチで進んでいます。

3月には施設を運営するRFSが、使用前検査用のキャスク1基を今年7月～9月に搬入する計画を発表。むつ市と青森県では6月議会で安全協定の説明会と質疑、7月にはむつ市及び県内6市すべてで住民説明会の予定です。問題はこの期に及んで、50年間の中間貯蔵後の再処理の際の具体的な搬出先が示されていないことです。再処理工場は40年で運転終了。そこで50年後の搬出先とされた「第二再処理工場」計画は、公文書からも記述が消えてしまいました。

今、全国の原発は燃料プールが満杯になりつつあり、再稼働が難しい状況です。しかしむつ中間貯蔵施設が本格操業となれば、再び

全国の電力会社の共用化が狙われます。これを許せば全ての原発の延命につながります。

むつ市では5月19日に、柏崎刈羽の地元議員も迎え、『使用済み核燃料搬入反対現地集会』に県内外の101人が結集。むつ市内のデモでは沿道で手を振る市民の姿もありました。私たちは6月には青森市で県民説明会及び県議会に向け、搬入反対をアピールします。

全国のみなさん、原発再稼働を止めるため、青森とともに、むつ中間貯蔵施設への使用済み核燃料の搬入を阻止しましょう！



5月19日むつ市内デモ